

委託事業実施内容報告書
2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】
実施内容報告書

団体名： 蓬萊日本語教室

1. 事業の概要

事業名称	「生活者としての外国人」のエンパワーメント事業
事業の目的	来日間もない外国出身者が日本での生活に早く慣れ、安全で快適な生活が送れるようになるために、生活に必要な情報の入手と日本語学習によるコミュニケーションスキルの上達を目指す。そのために、母語(インドネシア語)によるガイドブックを作成し、そのガイドブックを活用して快適な日本での生活を送るための日本語の習得を目指す。 また、来日後数年たち日本での生活にも慣れた外国出身者が、自身の持つ文化や経験を日本人に伝える国際理解の担い手となるような日本語の習得を目指す。彼ら彼女ら自身が持つ文化や経験を語るという目標を日本語学習に取り入れることで、日本語学習へのモチベーションが向上しより豊かな日本語表現を身につけることを目標とする。同時に外国出身者が自身の文化と経験を語ることで、地域住民と外国出身者の相互理解の促進も図る。 外国出身者の持つ能力を引き出し、外国出身者と地域社会をつなぐ日本語ボランティアを増やすことを目指す。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	平成 28 年 10 月末の時点で、福島県内で5,833 人の外国人が雇用されており、前年比 34.9%の増となっている。その内、約40%が技能実習生として来日している。技能実習生に限らず来日間もない外国出身者が日本で安全で快適に生活するためには、生活に必要な情報だけではなくそれを活用する日本語でのコミュニケーション力が必要であると考え、コミュニケーションに重点を置いた日本語指導の機会が得られず、日本人と会話がうまくできないと訴える外国人も多い。 一方、来日数年が経ち、日本での生活にも慣れた外国出身者も、もっと日本語が上手になりたいと地域日本語教室で勉強している。もし、彼らが支援されるだけでなく、彼らが持つ知識や経験を日本人社会に提供し、国際理解の担い手として活躍することができたら、彼らの日本語の力はもっと伸びるのではないだろうか。また、外国出身者の持つ力を引き出すスキルを持った日本語指導者及びボランティアは、外国出身者と地域社会をつなぐキーパーソンとなることが期待されるが、その数は決して多くない。
これまで日本語教育が行われていない市区町村の状況	
事業内容の概要	【取組1】来日間もない外国人のための生活ガイドプログラム (教材の作成)日本で安全で快適な生活をするために必要な情報(インドネシア語訳付き)と日本語の習得を目指す日本語教材を作成した。 (日本語講座の実施)作成した教材をもとに、合計36時間の日本語講座を実施した。対象者はインドネシア出身者に限定せず、多様な国の出身者が日本語講座に参加した。 【取組2】外国出身者の持つ知識や経験を活かすプログラム (日本語ボランティア研修)日本語ボランティア研修会を31時間実施。「『生活者としての外国人』のための日本語教育」の理念と手法、基本的な日本語教育の知識、やさしい日本語などを学ぶ講義を14時間実施した。さらに、日本語講座及び発表会に参加し、学習者の日本語学習を補助する実習を17時間実施した。 (日本語講座の実施)学習者が日本語を使って自身の持つ知識や技能、体験を伝えることを目標にした日本語講座を29時間実施した。 (教材の作成)日本語ボランティア研修用の教材を作成した。
事業の実施期間	令和元年5月～令和2年3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	中川 祐治	福島大学・准教授
2	幕田 順子	(公財)福島県国際交流協会・主任主査
3	芳賀 洋子	地球っ子クラブ2000・代表
4	星 レニ	コムニタス福島インドネシア・顧問
5	日下部 喜美子	蓬萊日本語教室・代表
6	佐々木 千賀子	蓬萊日本語教室・副代表

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和元年5月22日 (水) 16:30～18:30	2時間	(公財)福島県国際交流協会研修室	中川祐治、幕田順子、 芳賀洋子、星レニ 日下部喜美子、 佐々木千賀子	1. 取組1の実施内容の検討 2. 取組2の講義のテーマの検討
2	令和2年2月17日 (月) 10:00～12:00	2時間	EIWAN福島移住 女性支援ネット ワーク事務所	中川祐治、幕田順子、 芳賀洋子、星レニ 日下部喜美子、 佐々木千賀子	1. 取組1日本語講座実施の成果と課題の検討 2. 取組2日本語ボランティア研修会実施の成果と課題の検討 3. 教材作成の成果と課題の検討

(2)地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	・コムニタス福島インドネシア、日中文化ふれあいの会幸福、ベトナム出身者コミュニティ等、福島県内の外国出身者コミュニティと連携し、外国出身者の学びたい日本語学習の機会を提供することができた。さらに、コムニタス福島インドネシアの協力のもと、インドネシア語に翻訳した生活ガイド付きの日本語学習教材を作成することができた。 ・福島市アクティブシニアセンター・アオウゼで、取組2の発表会を実施してもらったことにより、より広範囲の地域住民に外国出身者の発表を聞いてもらえ、外国出身者の可視化につながり地域住民と外国出身者との交流の促進が期待される。 ・福島市教育委員会の後援をもらい、日本語教室の活動を社会教育の一つとして地域住民にアピールすることができた。 ・(公財)福島県国際交流協会、(一社)ふくしま多言語フォーラム、福島大学の教員と連携し、日本語講座及びボランティア研修会の内容を充実させることができた。 ・(一社)ふくしま多言語フォーラム、二本松国際交流ボランティアざくざくねっと等、県内で日本語教育を担う団体と連携し日本語指導者の充実を図った。 ・(公財)福島県国際交流協会の協力のもと、日本語教育だけではなく国際理解に関心を持つ人に日本語ボランティア研修会に参加してもらえた。 ・福島市内の交番、福島市及び二本松市の消防署、川俣町のゴミ処理担当職員、開業歯科医、開業小児科医等の協力を得て、実技の講習やゴミの分別、模擬診察などを行い、日本語講座の内容を充実させることができた。 ・小野町国際交流協会、川俣町国際交流協会と連携し、日本語講座を実施し、日本語ボランティアの掘り起こしや、日本語学習の機会が少ない外国出身者に日本語学習の機会を提供できた。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	インドネシア出身者コミュニティ「コムナス福島インドネシア」と協働で、日本語教材を作成し、日本語講座を実施した。運営委員を依頼している福島大学の中川祐治氏には、日本語教育の専門的な立場からのアドバイスをいただいた。日本語ボランティア研修会講師の米勢治子氏には、教材作成のアウトラインをアドバイスしていただいた。地域日本語教室「二本松国際交流ボランティアざくざくねっと」の菊地紀子氏、「(一社)ふくしま多言語フォーラム」の永島恭子氏に、日本語講座の講師を依頼し、講師陣を充実させた。 コーディネーター日下部喜美子は、プログラムの企画・立案、日本語教材の作成、外国出身者のニーズを調査し、関係団体と連携し地域住民と外国出身者との対話や交流を促進するための体制整備、日本語教育に関わる人材の養成・研修を主に担当した。指導者佐々木千賀子は、日本語指導及び教材の作成を主に担当した。
-----------------	---

3. 各取組の報告

日本語教育の実施 【活動の名称：(取組1)来日間もない外国人のための生活ガイド日本語講座】											
目的・目標		来日間もない外国出身者が日本ででの生活に早く慣れ、安全で快適な生活が送れるようになるために、生活に必要な情報を「生活ガイドブック」で入手し、その情報を活用し日本ででの生活の質を向上させるための日本語でのコミュニケーションスキルの伸長を図る。									
内容の詳細		外国出身者及び運営委員会の意見を参考に、9つのテーマで日本語講座の実施を図った。(1テーマは来年度に実施を延期した)日本で生活する外国出身者が安全で快適に生活するために、情報の入手とコミュニケーションスキルを高めることに重点を置いた日本語学習とした。 日本語講座では、できるだけ日本語ボランティアや地域の人(警察官、消防士、医師、ホストファミリー、行政の職員等)の協力を得て、日本語での対話、真正の学びができるように配慮した。									
実施期間		令和元年7月28日(日)～令和2年2月23日(日)			授業時間・コマ数		1回 2時間 × 7回 = 14時間 1回 3時間 × 3回 = 9時間 1回 6.5時間 × 2回 = 13時間 計 36 時間				
対象者		外国出身者等及び地域住民			参加者		総数 207人 ※延べ人数 (受講者 137人、指導者・支援者等 70人)				
カリキュラム案活用		カリキュラム案を参考に日本語講座のテーマ及び活動の内容を決定し、日本語能力評価を参考にポートフォリオ評価を取り入れ、学習の振り返りを実施した。									
使用した教材・リソース		今回作成したオリジナル教材									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
		15			19		7	89		1	
		バングラデシュ1人、カンボジア2人、パキスタン3人									
日本語教育の実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和元年7月28日 (日) 13:00～16:00	3	福島駅西口 周辺(屋外) EIWAN福島 移住女性支援ネットワーク事務所 福島市内の交番	6	公共サービスを利用しよう	・日本語教室の場所が書かれたメモをもらい道を尋ねながら日本語講座の会場に行く ・遺失物届提出の練習をし、交番に遺失物届を出しに行く ・学習を振り返る		日下部喜美子 菊地紀子	警察官2人(遺失物届の受理) ※氏名掲載不可		
2	令和元年9月1日 (日) 10:00～16:30	6.5	福島市蓬萊 学習センター ホストファミリー宅	12	日本の基本的なマナーを知り日本人家庭を訪問しよう	・家庭訪問先でのマナーや言葉を確認する ・日本人の家庭を訪問し昼食をごちそうになる ・訪問した家庭について報告を発表し合う		日下部喜美子 菅野由貴子	末永留吉、溝井彩夏、 松井美樹、日下部誠一 (日本語指導の補助)		

3	令和元年9月8日(日) 10:00~12:00	2	福島市蓬萊 学習センター	4	自分で調べて計画 を立てよう	・観光パンフレットを見たり日本語ボラン ティアに聞いたりして自分が行きたいと ころ、自分が経験したいことを決める ・インターネット等で調べながら、実施の 計画を立てる ・学習者が自分の計画を発表し合う	日下部喜美子 佐々木千賀子	溝井彩夏、牛木潤子、 前田尋貴、佐久間民子、 難波和久、齋藤千冬、 菅野由貴子、末永留吉 (日本語指導の補助)
4	令和元年9月29日 (日) 10:00~12:00	2	福島南消防 署	4	防火を心がけよう	・火事の原因、火事になった時の対処法 を話し合う ・消防士の防火講話を聞き、質問する ・119番通報の練習をする ・消火器訓練をする ・学習を振り返る	佐々木千賀子 日下部喜美子	齋藤千冬、菅野由貴子、 山崎翔(日本語指導の補助) 福島南消防署消防士2人(防火指 導)※氏名掲載不可
5	令和元年12月8日 (日) 10:00~12:00	2	福島市蓬萊 学習センター	3	災害に備えよう	・災害の種類と災害時の行動を話し合う ・災害用伝言ダイヤルの音声ガイダンス を聞き内容を理解する ・災害用伝言ダイヤルに自分のスマホ から電話に自分の安否を録音する ・学習を振り返る	佐々木千賀子	齋藤千冬、菅野由貴子、 末永留吉(日本語指導の補助)
6	令和元年12月15日 (日) 14:30~16:30	2	二本松市市 民交流セン ター	60	防火を心がけよう	・火事の原因、火事になった時の対処法 を話し合う ・消防士の防火講話を聞き、質問する ・学習を振り返る	佐々木千賀子 日下部喜美子	堀川昌一、遠藤慎也、菅野貴仁 (安達地方広域行政組合北消防 署消防士・防火指導)
7	令和2年1月12日(日) 10:00~12:00	2	福島市蓬萊 学習センター	5	当たり前が違うの は当たり前	・さまざまなシチュエーションで自分がど うするか発表し合う ・マスクに対する意識を話し合う ・「当たり前」という言葉の意味を理解す る ・自分が当たり前だと思っていたことが 違っていたエピソードを考え文章化する ・自分のエピソードを発表し合う	日下部喜美子 佐々木千賀子	齋藤千冬、菅野由貴子 (日本語指導の補助)
8	令和2年1月19日(日) 10:00~16:30	6.5	福島市蓬萊 学習センター ホストファミ リー宅	7	日本の基本的なマ ナーを知り日本人 家庭を訪問しよう	・家庭訪問先でのマナーや言葉を確認 する ・日本人の家庭を訪問し昼食をごちそう になる ・訪問した家庭について報告を発表し合 う	日下部喜美子 佐々木千賀子	菅野由貴子、齋藤千冬、 末永留吉、溝井彩夏、 尖戸恵美子、坪井有佳子 (日本語指導の補助)
9	令和2年2月2日(日) 10:00~12:00	2	福島市蓬萊 学習センター	7	当たり前が違うの は当たり前	・さまざまなシチュエーションで自分がど うするか発表し合う ・友達から借りられるものはどこまでか をお互い聞き合う ・「当たり前」という言葉の意味を理解す る ・自分が当たり前だと思っていたことが 違っていたエピソードを考え文章化する ・自分のエピソードを発表し合う	日下部喜美子 佐々木千賀子	齋藤千冬、菅野由貴子、 末永留吉、桑田剛 他2人※氏名掲載不可 (日本語指導の補助)
10	令和2年2月2日(日) 13:30~16:30	3	(一社)ふくし ま多言語 フォーラム事 務所	11	歯科を受診する	・口の中のトラブルについて自分の経験 を語る ・歯の名前や口の中の病気の名前を知 る ・問診表に記入する ・歯科を模擬受診する ・正しい歯の磨き方を習う ・歯科医に質問する ・歯科医が使った言葉を復習する ・今日学んだことを文章化し発表する	日下部喜美子 菊地紀子	菅野由貴子、安藤恵 (日本語指導の補助) 赤井畑直明 (歯科医・模擬診察及び講話)
11	令和2年2月9日(日) 10:00~12:00	2	福島市蓬萊 学習センター	5	当たり前が違うの は当たり前	・誰も知らない私の情報を披露しあう ・学習を振り返る	日下部喜美子 佐々木千賀子	齋藤千冬、菅野由貴子、 末永留吉(日本語指導の補助)
12	令和2年2月23日(日) 9:30~12:30	3	川俣町公民 館	13	ゴミを正しく出そう	・自分がどんなごみを出しているか話し 合う ・ゴミの種類、リサイクルマークを理解す る ・実際にごみを分別する ・分別が正しくできているか町の担当者 に判断してもらい、間違っていた場合は 分別し直す ・町の担当者のゴミに関する講話を聞 き、質問する ・川俣町のゴミの分別の方法をワーク シートで確認する ・学習を振り返る	佐々木千賀子 日下部喜美子	高橋智之(川俣町生活環境係・ゴ ミの分別の指導) 石川雅昭、佐藤武二(川俣町国 際交流協会役員・ゴミの分別の補 助)
13	令和2年2月2日(日) 13:30~16:30		(一社)ふくし ま多言語 フォーラム事 務所		内科を受診する	新型コロナウイルス拡散防止のために 来年度に延期		

日本語教育の実施【活動の名称:(取組2)外国出身者の持つ知識や経験を活かす日本語講座】										
目的・目標	外国出身者が、自身の持つ文化や経験を日本人に伝える国際理解の担い手として活躍できる日本語の習得を目指す。自身が持つ文化や経験を語るという目標を日本語学習に取り入れることで、より豊かな日本語表現を身につけることを目指す。									
内容の詳細	自分だけのエピソードを見つけて発表する日本語講座を3グループにシリーズで実施し、発表会を開催した。その他に、子どもの進路相談のための日本語講座、多言語お話会の実施、ベトナム出身者が自国の料理を日本人に伝える日本語講座を実施した。									
実施期間	令和元年6月29日(土)～令和2年2月16日(日)				授業時間・コマ数	1回 1.5時間 × 2回 = 3時間 1回 2時間 × 6回 = 12時間 1回 3時間 × 3回 = 9時間 1回 5時間 × 1回 = 5時間 計 29時間				
対象者	外国出身者及び日本語ボランティア				参加者	総数 129人 ※延べ人数 (受講者 71人, 指導者・支援者等 58人)				
カリキュラム案活用	カリキュラム案を参考に日本語講座のテーマ及び活動の内容を決定し、日本語能力評価を参考にポートフォリオ評価を取り入れ、学習の振り返りを実施した。									
使用した教材・リソース	オリジナル教材 (公財)福島県国際交流協会作成の教材 http://www.worldvillage.org/kouryu/nihongoshinko/03introducecooking.pdf									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	36		1	19		1	6		3	
	カンボジア(1人)、パキスタン(3人)、バプアニューギニア(1人)									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和元年6月29日(土) 14:45～16:45 令和元年6月30日(日) 9:00～10:00	3	国立磐梯青少年交流の家	6	①子どもの進路 ②多言語お話会	①日本の学校についてわからないことを日本語で聞く ②日本語の意味を理解し母語で読み聞かせをする	日下部喜美子 芳賀洋子	本田一意(教育関係者) 佐藤信行(日本語補助者) ジェフリー・メンセンディーク(通訳・英語) 高野勝春(通訳・中国語)		
2	令和元年11月10日(日) 10:00～12:00	2	福島市蓬萊学習センター	4	自分だけのエピソードを発表する	・自己紹介をする ・自身のおもしろいエピソードをボランティアと一緒に探し、書き起こす ・エピソードを発表する	日下部喜美子	佐々木千賀子、菅野由貴子 末永留吉、桑田剛 (日本語補助者)		
3	令和元年11月24日(日) 9:30～14:30	5	小野町公民館	8	ベトナム料理の作り方を伝えながら日本語を学ぶ	・日本語とベトナム語でアイスブレイキング ・材料や調理器具の名前を確認する ・調理の工程を細かく区切り、調理の説明を日本語で覚え、日本語ボランティアに伝え日本語ボランティアが調理する ・ベトナム料理を食べながら学習者と日本語ボランティアが対話をする ・学習を振り返る	佐々木千賀子 日下部喜美子	小野町国際交流協会の皆さん16人(日本語補助者) ※氏名掲載不可		
4	令和元年12月1日(日) 10:00～12:00	2	(一社)ふくしま多言語フォーラム事務所	4	自分だけのエピソードを発表する	・自己紹介をする ・自身のおもしろいエピソードをボランティアと一緒に探し、書き起こす ・エピソードを発表する	日下部喜美子	佐々木千賀子、菅野由貴子、 齋藤千冬、桑田剛 (日本語補助者)		
5	令和元年12月15日(日) 10:00～12:00	2	福島市蓬萊学習センター	3	自分だけのエピソードを発表する	・自己紹介をする ・自身のおもしろいエピソードをボランティアと一緒に探し、書き起こす ・エピソードを発表する	日下部喜美子	佐々木千賀子、菅野由貴子、 末永留吉、桑田剛 (日本語補助者)		
6	令和2年1月12日(日) 13:30～16:30	3	郡山市中央公民館	8	自分だけのエピソードを発表する	・自己紹介 ・グループに分かれ日本人住民に聞いてみたいことを書き出す ・実際に聞く質問を決める ・公民館に来ている人にインタビューする ・質問の回答をインタビューシートにまとめ、googleフォームに送信する	永島恭子 日下部喜美子	李莉岩(中国出身者コミュニティ代表)、 鵜川薫(日本語補助者)		
7	令和2年1月15日(水) 13:30～15:00	1.5	(公財)福島県国際交流協会	1	自分だけのエピソードを発表する	・自己紹介 ・対話をしながら自分だけのエピソードを探す ・エピソードを書き起こす	日下部喜美子			
8	令和2年1月19日(日) 13:00～16:00	3	中国出身者コミュニティ代表者宅	8	自分だけのエピソードを発表する	・前回の回答結果をgoogleフォームで作成したグラフを参考にまとめて、発表原稿を作成する ・回答結果から、分かったこと、感じたこと、もっと知りたいと思ったことなどを話し合い、発表原稿にまとめる	永島恭子	李莉岩(中国出身者コミュニティ代表)		

9	令和2年1月19日(日) 13:30～15:00	1.5	福島市蓬萊 学習センター	1	自分だけのエピソードを発表する	・発表原稿を推敲する ・原稿を読み、スピーチの仕方を学ぶ	日下部喜美子	
10	令和2年1月20日(月) ～ 令和2年2月13日(木)	2	WeChatアプリ で指導	8	自分だけのエピソードを発表する	・発表原稿を校正し、音読し、録音したものを送信する ・Microsoft Power Pointに録音データを取り込んで作成された発表動画を参考に発表の練習をする	永島恭子	
11	令和2年2月16日(日) 10:00～12:00	2	福島市蓬萊 学習センター	12	自分だけのエピソードを発表する	・発表のためのパワーポイントを作る ・自分のエピソードを発表する ・他の学習者の発表を聞き、質問やアドバイスをする	日下部喜美子	佐々木千賀子、菅野由貴子、 齋藤千冬(日本語補助者)
12	令和2年2月16日(日) 10:00～12:00	2	福島市アク ティビシニア センター・アオ ウゼ	8	自分だけのエピソードを発表する 【発表会】	・自分だけのエピソードを発表する ・発表を聞いた人からの質問に答える ・グループに分かれて来場者と対話する ・発表会に参加した感想を書く	日下部喜美子 永島恭子	佐々木千賀子、齋藤千冬、 ブイ・ヴァン・ホック、溝井彩夏 (日本語補助者) アオウゼ(発表会主催者)スタッフ7 人、来場者18人

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【取組1第2回 令和元年9月1日】

- 1 自己紹介をする。
- 2 知人・友人の家庭を訪問したときに必要な言葉を確認する。
- 3 箸のマナーを確認する。どのマナー違反がいちばん嫌がられるか日本人に尋ねる。
- 4 家庭訪問先で初めて会う家族にする自己紹介を考える。
- 5 家庭訪問先で、どんな会話をするか、質問を考える。
- 6 日本人の家庭に行く。
- 7 訪問した家庭で昼食をごちそうになりながら、用意した質問をして会話をする。
- 8 家庭訪問から帰り、訪問した家庭を紹介する文章を考えて書く。
- 9 訪問した家庭について発表する。
- 10 アンケート記入



○取組事例②

【取組2第12回 令和2年2月16日】

- 1 自分だけのエピソードを発表する
- ① 日本人の家庭ではじめてお昼ご飯をごちそうになった！(インドネシア出身者)
- ② 日本人に突撃インタビュー！(中国出身者)
- ③ いつまでたっても信号が青にならない！？(ベトナム出身者)
- 2 発表を聞いた人からの質問に答える
- 3 グループに分かれて来場者と対話する
- 4 感想を書く



(2) 目標の達成状況・成果

【取組1】アンケート結果や講座実施者の振り返りをもとに、運営委員会で評価した。

- ・講座を開催することで、外国出身者と日本人の接触の機会を作ることができた。
- ・ホームビジットで日本人宅に行ったことで、外国出身者と日本人のつながりができた。
- ・その結果、外国出身者が日本で心地よく暮らすことができる力をつけることができた。(日本語講座終了直後のアンケートで、「日本での生活ができるようになったかの問いに、できるようになった75.5%、少しできるようになった21.4%回答)
- ・地域住民が日本語講座に参加し、協力してくれた。そして、外国出身者と活動することで、外国出身者に対する気持ちのハードルが低くなった。地域住民が外国人を身近な存在として意識することができた。
- ・各講座とも日本人ボランティアや地域で活躍している専門知識を持つ人たちに講座に参加してもらった。その結果、警察官、消防士、歯科医、ボランティアなど講座に協力してくれた人たちが外国出身者と話すうちに言語調整をして、どんどん外国出身者に分かりやすく話すようになっていった。
- ・「防火を心がけよう」「災害に備えよう」「歯科を受診する」などの回では、安心、安全に暮らすための知識を提供できた。
- ・「当たり前が当たり前じゃない」の回では、日本人が当たり前だと考えていたことを再考する機会にもなり、外国出身者に新しい見方を教えてもらうことができた。
- ・人種や国籍ではなく、個人としての考えを引き出す工夫があった。
- ・インドネシア出身者コミュニティや川俣町国際交流協会と協働で日本語講座を実施することによって、さまざまな学習者や地域住民を巻き込んだ日本語講座を実施することができ、外国出身者に日本語学習の機会を提供できた。

【取組2】アンケート結果や講座実施者の振り返りをもとに、運営委員会で評価した。

- ・アンケートによると、日本語講座への満足度がとても高く、発表会を実施したり、自分の文化を日本人に伝えることができた達成感があったようだ。(満足と回答81.0%、まあまあ満足と回答19.0%)
- ・外国出身者が地域をどのように見ているか、日本人参加者が地域の中でのおすすめのことを紹介しあうことで、外国出身者も地域住民も、その地域の良さを確認することができた。
- ・発表会を、福島市アクティブシニアセンター・アオウゼに相談し、福島市アクティブシニアセンター・アオウゼの主催事業として実施した。その結果、発表会を広く告知でき、外国出身者の声を直接多くの日本人に届けることができた。
- ・地域に住む外国出身者やその人たちの日本語の学び、考えが可視化できた。
- ・発表会に参加した学習者は、発表会による日本語学習の効果を実感し、日本語学習のモチベーションが上がった。また、発表会に外国出身者コミュニティのキーパーソンが2人参加した。彼らも、日本人に向けてプレゼンテーションすることの学習効果や外国出身者の社会参加の促進の機会となることを実感し、次年度に向けて協働で日本語講座を実施していくことを確認できた。特にインドネシアコミュニティは、毎年実施しているインドネシアフェスティバルで、インドネシア料理の紹介のプレゼンテーションを実施するために日本語の学習を事前にしたいと申し出てくれた。

(3) 今後の改善点について

【取組1】

- ・インドネシア出身者コミュニティと協働で何回か日本語座を実施したが、コミュニティの代表者が考えるほど日本語を学びたいという意識は高くなかったように思う。日本語講座で毎回とったアンケートでは100%の学習者ももっと日本語を学びたいと回答しているが、日本語講座に参加する行動には直結せず、どのような日本語の学びを彼らが望んでいるのか、今後もニーズを詳しく分析する必要がある。ホームビジットのような楽しい講座は人気があった。

【取組2】

- ・「自分だけのエピソードを発表する」という意味が、当初、学習者にも日本語ボランティアにもなかなか理解してもらえなかった。提示方法を工夫する必要があった。
- ・その人の経験や考え方を聞きだすテクニックのようなものが要求されるが、そのことを日本人参加者に伝えるのが難しく回数を重ねていくことが必要だ。
- ・会場の広さの関係で、発表会で発表しない学習者の見学ができなかったのが残念だった。
- ・学習者の発表内容の指導と発表会の企画を、当初は日本語ボランティア研修会に参加したボランティアの実習として実施したかったが、日本語ボランティアの実習への参加が少なかったこと、発表会に向けてのボランティアへの指導が十分にできなかったこと、学習者の一時帰国が相次ぎ学習者の確保も難しかったことで、ボランティアによる発表会の企画は断念した。学習者の発表内容の指導も最終的には日本語講師が実施し発表会用のプレゼンテーションとして仕上げた。日本語ボランティアが実習として発表会を企画できるような、働きかけが必要だった。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施 【活動の名称：外国人のチカラを引き出す日本語ボランティア研修会】

目的・目標	地域日本語教室での日本語学習は、日本語を使ってコミュニケーションをとり、安全で快適な生活が送れるようにすることである。日本語を使ってコミュニケーションを図るために、日本語ボランティアにとって必要な知識・技能・態度を学ぶ。また、外国出身者の力が発揮できるように働きかけながら、教室活動が組み立てられるようにする。		
内容の詳細	【講義】 ・『生活者として外国人』のための日本語教育(3時間) ・地域型日本語教育を考える(3時間) ・世界に一つの国際理解教育(2時間) ・やさしい日本語(3時間) ・外国出身者の持つ知識や経験を活かすプログラム 実践:すべては対話から始まる(3時間) 【実習】 ・日本語教室活動「自分で調べて計画を立てよう」に参加する(2時間) ・外国出身者が自分だけのエピソードを見つける日本語講座に参加する(2時間×4回 計8時間) ・外国出身者が自分だけのエピソードを発表する発表会に参加し、来場者と学習者のコミュニケーションを円滑にする補助をする(2時間) ・外国出身者が自国の料理を紹介する日本語講座の補助をする(5時間)		
実施期間	令和元年8月25日(日)～令和2年2月16日(日)	授業時間・コマ数	1回 2時間 × 7回 = 14時間 1回 3時間 × 4回 = 12時間 1回 5時間 × 1回 = 5時間 計 31時間
対象者	地域日本語教室での活動に関心のある人	参加者	総数 41人 (受講者 33人、指導者・支援者等 8人)
カリキュラム案活用	ガイドブック、教材例集、日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)を参考に、日本語ボランティア研修のテーマ、内容を決定した。指導力評価についてを参考に、日本語ボランティアが自身の活動を振り返ることができるように配慮した。		
使用した教材・リソース	担当講師オリジナルの教材		

受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本
				1						32
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和元年8月25日 (日) 13:30～16:30	3	福島市蓬萊 学習センター	2	【講義】 「生活者としての外 国人」のための日 本語教育	・支援対象とする学習者の変化 ・多文化共生施策と日本語教育 ・「生活者としての外国人」への日本語 教育 ・地域日本語教室のあり方 ・日本語ボランティアとは ・日本語ボランティアの基礎力	米勢治子			
2	令和元年9月8日(日) 10:00～12:00	2	福島市蓬萊 学習センター	8	【実習】 日本語教室に参加 する	・日本語講座「自分で調べて計画を立て よう」に参加する	日下部喜美子	渡辺タンチャノック、櫻内結、 張、ジャスミン(日本語学習者)		
3	令和元年9月8日(日) 13:00～16:00	3	福島市蓬萊 学習センター	13	【講義】 地域型日本語教育 を考える	・増加／多様化する外国人住民 ・「生活者としての外国人」とは ・地域型日本語教育を考える ・地域型日本語教育の実践	中川祐治			
4	令和元年10月5日 (土) 10:00～12:00	2	(公財)福島県 国際交流協 会	12	【講義】 世界に一つの国際 理解講座	・地域の在留外国人の状況 ・国際理解教材「レヌカの学び」の体験 ・オリジナル版「○○の学び」の作成 ・まとめ～多様性とは	幕田順子			
5	令和元年10月5日 (土) 13:00～16:00	3	(公財)福島県 国際交流協 会	14	【講義】 やさしい日本語	・やさしい日本語とは ・基礎編 ・応用編 ・振り返りと共有	齋藤美幸			
6	令和元年10月22日 (火) 13:30～16:30	3	福島市蓬萊 学習センター	12	【講義】 外国出身者の持つ 知識や経験を活か すプログラム 実践:すべては対 話から始まる	・日本語学習の最終目標 ・エンパワメント実現に向けた流れ ・外国出身の人のエンパワメントのた めに～関わる人に求められる力 ・まとめ～私たちが繋がらないと学習者 は繋がれない～	芳賀洋子	Nofie Dela Cruz、櫻内結、 キエウ・ブィ・サウ (日本語学習者)		
7	令和元年11月10日 (日) 10:00～12:00	2	福島市蓬萊 学習センター	4	【実習】 外国出身者が自分 だけのエピソードを 見つける	・自己紹介をする ・学習者と対話し、学習者のエピソード を引き出す ・学習者がエピソードを発表できるように 補助する	日下部喜美子	櫻内結、ベン・スレイニッチ キエウ・ブィ・サウ、楊丹 (日本語学習者)		
8	令和元年11月24日 (日) 9:30～14:30	5	福島市蓬萊 学習センター	16	【実習】 ベトナム料理を紹 介する	・日本語ボランティアの役割と日本語学 習の補助の仕方を理解する ・日本語とベトナム語でアイスブレーキ ング ・ベトナム出身学習者の指示のとおり に料理を作る ・ベトナム料理を食べながら学習者と対 話をする ・学習者の学習の振り返りを補助する	佐々木千賀子 日下部喜美子	ベトナム出身者8人 ※氏名掲載不可		
9	令和元年12月1日 (日) 10:00～12:00	2	福島市蓬萊 学習センター	4	【実習】 外国出身者が自分 だけのエピソードを 見つける	・自己紹介をする ・学習者と対話し、学習者のエピソード を引き出す ・学習者がエピソードを発表できるように 補助する	日下部喜美子	櫻内結、富塚京子 張、キエウ・ヴィ・サウ (日本語学習者)		
10	令和元年12月15日 (日) 10:00～12:00	2	福島市蓬萊 学習センター	4	【実習】 外国出身者が自分 だけのエピソードを 見つける	・自己紹介をする ・学習者と対話し、学習者のエピソード を引き出す ・学習者がエピソードを発表できるように 補助する	日下部喜美子	渡辺タンチャノック、富塚京子、 キエウ・ヴィ・サウ (日本語学習者)		
11	令和2年2月16日(日) 10:00～12:00	2	福島市蓬萊 学習センター	3	【実習】 外国出身者が自分 だけのエピソードを 発表する	・学習者が発表のためのパワーポイント を作る補助をする ・学習者の発表を聞き、質問やアドバイ スをする	日下部喜美子	グエン・タイン・ソン、 ユヌス・ロフマト、 ムハマッド・ズルフィカル・ファウ ジ、 アクマル・ムハディ、 山崎恵、ミー、カー、リン、チャン、 ルー、アフマド・ズベール、 ウラ・オベード(日本語学習者)		
12	令和2年2月16日(日) 13:30～15:30	2	福島市アク ティブシニア センター・アオ ウゼ	4	【実習】 外国出身者が自分 だけのエピソードを 発表する	・学習者の発表を補助する ・発表者と来場者の間に入りコミュニ ケーションをやさしい日本語助ける	日下部喜美子 永島恭子	グエン・タイン・ソン、 ユヌス・ロフマト、 ムハマッド・ズルフィカル・ファウ ジ、 アクマル・ムハディ、 馮金哈、林旋、李曉蘭、劉佳 (エピソード発表者)		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 令和元年8月25日】

1 多文化共生施策としての日本語コミュニケーション支援

2 支援対象とする学習者

3 地域日本語教室のあり方

地域日本語教育のシステム図(日本語教育学会2008,2009)を見て、①教室の活動目的、②教室の参加者、③教室で行う活動、④「生活者としての日本人」の役割、⑤「コーディネーター」の役割について考える。

4 日本語ボランティアとは

「日本語ボランティア-地球市民時代のご近所づきあい」(鳥取大学国際交流センターの御館久里恵さん)の文章を読んで、①強く共感したところ、②日本語教室の役割、③日本語ボランティアの役割について、受講者どうして話し合う。

5 日本語ボランティアの基礎力

(1)活動創造力…「学習者の力を引き出す」にはどんなことについて話せばいいか、受講者どうして話し合う。

(2)コミュニケーション力…どうすれば、お互い気持ちよくコミュニケーションできるか受講者どうして話し合う。話し方、聴き方、話し方それぞれに、コミュニケーションを促進するものと阻害するものを考える。

(3)場づくり力…①学習者と話が続きにくい場合、②説明の言葉が通じにくい場合、③自分だけ話しているボランティア、それぞれにどうしたらいいかを考える。

6 振り返り

振り返りシートをもとに、自己の学びを振り返る。



○取組事例②

【第8回 令和元年11月24日】

1 日本語ボランティアの役割と日本語学習の補助の仕方について説明を受ける

2 アイスブレイキング

日本語とベトナム語であいさつをする。

グループごとに日本語で自己紹介をし、学習者の自己紹介を補助する。

グループの人の名前を順に言っていくゲームに参加する。

日本語とベトナム語の数字を使ったゲームに参加する

学習者の名札作りを補助する。

3 グループの学習者から調理の仕方の説明を受け、調理する。

4 配膳し、学習者と料理の感想、ベトナムの生活、日本の生活などについて、会話をしながら料理を食べる。

5 学習者と協力して後片付けをする。

6 学習者に小野町の良いところをやさしい日本語で説明する。

7 学習者のアンケート記入を補助する。



(2) 目標の達成状況・成果

【講義】

・出席率もよく、熱心に取り組む姿勢が見られた。

・日本語ボランティア経験者や希望者だけでなく、参加対象者を国際理解に興味を持つ人にも広げたので、新しく地域日本語教室の活動に接する人が増えた。

・同じ地域に住む住民として外国出身者とともにより良い地域社会を作るためにも「やさしい日本語」や「対話」が有効であることが伝わった。

【実習】

・研修会参加者に、実際に外国出身者とやさしい日本語を使って対話する機会を提供できた。

・小野町国際交流協会の主催で実施した「ベトナム料理を教える日本語講座」では多くの日本人ボランティアに参加してもらい、やさしい日本語を使ってベトナム出身者と対話をする機会を設けることができた。

(3) 今後の改善点について

【講義】

- ・講義の内容が、実際の活動につながったか、実際に実習で「対話」ができていたかどうかは疑問が残る。
- ・日本語指導のノウハウの伝達に重きを置いた研修会ではなかったため、日本語ボランティアの関心が薄かった。「生活者としての外国人」のための日本語教育の普及には根気強い研修会の開催と実践の場の提供が必要である。

【実習】

- ・講義に比べると参加者の出席率はよくなかった。実習のための講義だということが伝わっていなかったかもしれない。
- ・研修会の目的をきちんと伝える必要があった。言語学習そのものが目的ではなく、共生や学びあいを学習する研修会であることをもっと押し出した方がよかった。
- ・外国出身者との接触が目的ではなく、外国出身者からその人の能力や経験を引き出すという姿勢を持つ人に多く参加してもらうためにも広報に工夫が必要だった。
- ・研修会参加者のモチベーションをあげ、継続させるためにも研修会の最終目的を明らかにした方がよかった。
- ・地域の人たちが関わり、日本人も外国出身者も学びあえる場をどう作り続けるかが今後の課題である。

日本語教育のための学習教材の作成

【教材の名称：日本での生活をもっと安全にもっと快適にするための生活ガイド付きき日本語教材(インドネシア版)】

目的・目標	来日間もない外国出身者が日本での生活に早く慣れ、安全で快適な生活が送れるようになるために、生活に必要な情報の入手と日本語学習ができるガイドブックを作成する。		
内容の詳細	来日間もない外国出身者が日本での生活に早く慣れ、安全で快適な生活が送れるようになるために、生活に必要な情報を得るための生活ガイドを日本語とインドネシア語でつけた。日本語学習教材を作成した。取り上げる内容は標準的なカリキュラム案を参考に、外国出身者コミュニティの意見も聞き、教材作成検討会議で検討し、9つのテーマの教材を作成した。 【テーマ】 基本マナーを知って日本人の家庭を訪問しよう 公共サービスを利用しよう ゴミを正しく出そう 防火を心がけよう 災害に備えよう 内科を受診する 歯科を受診する 自分で調べて計画を立てよう 当たり前が違うのは当たり前		
実施期間	令和元年 5月 20日～令和 2年 3月 19日	作成教材の 想定授業時間	1回 2時間 × 1回 = 2時間 1回 3時間 × 5回 = 15時間 1回 4時間 × 1回 = 4時間 1回 6時間 × 1回 = 6時間 1回 7時間 × 1回 = 7時間 計 34時間
対象者	インドネシア出身者のみならず出身国に関わらず使用可能。日本語のレベルは初級から上級まで、どのレベルの学習者にも対応可能。	教材の頁数	86 ページ
カリキュラム案活用	カリキュラム案の「生活上の行為の事例」を参考に決定した。		
事業終了後の教材活用	次年度も、作成した教材を使い外国出身者に日本語講座を実施し、必要に応じて改訂、追加し、教材の内容を充実させていく。		
成果物のリンク先	文化庁のホームページ		

日本語教育のための学習教材の作成

【教材の名称：外国人のチカラを引き出す日本語ボランティア研修 国際理解×日本語 日本語ボランティア用研修教材】

目的・目標	外国出身者の持つ能力を引き出し、外国出身者と地域社会をつなぐ日本語ボランティアのための教材を作成する。		
内容の詳細	外国出身者が持つ知識や経験を活かして外国出身者が社会で活躍できるための日本語学習活動を、日本語ボランティアが企画実施できるようになるためのボランティア用研修教材を作成した。日本語ボランティアは日本語学習の活動を企画し、実施し、振り返りをし、実践的な力をつけることを目指した。具体的な内容は運営委員会及び教材作成検討会議で協議し決定した。 【内容】 第1回 「生活者としての外国人」のための日本語教育 米勢治子(東海日本語ネットワーク) 第2回 実習「日本語教室に参加する」 日下部喜美子(蓬萊日本語教室) 第3回 地域型日本語教育を考える 中川祐治(福島大学) 第4回 世界に一つの国際理解講座 幕田順子(公益財団法人福島県国際交流協会) 第5回 やさしい日本語 齋藤美幸(インターカルト日本語学校) 第6回 外国出身者の持つ知識や経験を活かすプログラム 実践:すべては対話から始まる 芳賀洋子(地球っ子クラブ2000、多文化子育ての会Cocorico、てんきりん) 実習① 外国出身者が自分だけのエピソードを見つける 日下部喜美子(蓬萊日本語教室) 実習② 日本人にインタビューをする 永島恭子(一般社団法人ふくしま多言語フォーラム) 実習③ 「発表会」の実施 日下部喜美子(蓬萊日本語教室)		

実施期間	令和元年 8月 25日～令和 2年 3月 19日	作成教材の 想定授業時間	1回 2時間 × 3回 = 6時間 1回 3時間 × 4回 = 12時間 1回 4時間 × 1回 = 4時間 1回 8時間 × 1回 = 8時間 計 30時間
対象者	日本語ボランティア	教材の頁数	70ページ
カリキュラム案活用	指導力評価項目一覧を参考に、自己の活動を振り返り、点検・改善し、学び続けられるような人材養成を目指した。		
事業終了後の教材活用	当会のボランティアの育成に活用する。インターネットで教材を公開することにより、他の地域日本語教室でも活用してもらう。		
成果物のリンク先	文化庁のホームページ		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

来日間もない外国出身者が日本での生活に早く慣れ、安全で快適な生活が送れるようになるために、生活に必要な情報の入手と日本語学習によるコミュニケーションスキルの上達を目指す。そのために、母語(インドネシア語)によるガイドブックを作成し、そのガイドブックを活用して快適な日本での生活を送るための日本語の習得を目指す。

また、来日後数年たち日本での生活にも慣れた外国出身者が、自身の持つ文化や経験を日本人に伝える国際理解の担い手となるような日本語の習得を目指す。彼ら彼女ら自身が持つ文化や経験を語るとい目標を日本語学習に取り入れることで、日本語学習へのモチベーションが向上し、豊かな日本語表現を身につけることを目標とする。同時に外国出身者が自身の文化と経験を語ることで、地域住民と外国出身者の相互理解の促進も図る。

外国出身者の持つ能力を引き出し、外国出身者と地域社会をつなぐ日本語ボランティアを増やすことを目指す。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

- ・日本語講座実施直後に学習者にとったアンケートによると、日本語が上手になったと思う人65.5%、日本での生活ができるようになったと思う人73.9%、プログラムの内容に満足した人84.0%と、生活に必要な情報の入手とコミュニケーションスキルの上達を図るこの事業の目標は、ほぼ達成できたものと考え。日本での生活ができるようになったと答える人が、日本語が上達したと思う人より多かったことは、情報の入手とコミュニケーション能力の向上がより達成できたと考え。
- ・また、プログラムの内容に満足しているという人の割合がさらに高かったことは、日本語講座が学習者のニーズに合っていたことと、外国出身者自身が持つ経験や知識を発信することができたことで達成感が得られたことによると思われる。
- ・日本語ボランティア研修会の5回の講義終了後のアンケートによると、回答率は28.1%と低かったが、9人中8人の人が「生活者としての外国人」のための日本語教育への理解が深まった、やや深まったと回答していること、日本語ボランティアを今後してみたいと回答した人も6人中4人いたことから、外国出身者と地域社会を繋ぐ日本語ボランティアの育成ができたと考え。
- ・発表会終了直後の発表者の感想によると、8人の発表者ほぼ全員が、日本人の前で自身のエピソードを発表したことで自分の日本語の力が増したと、大きな満足感が得られたこと、またこのような発表を行いたいと答えている。今回発表会に参加しなかった学習者も、次回は自分も参加したいと日本語学習へのモチベーション向上につながった。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

カリキュラム案を参考に、活動を多く取り入れ、地域の人々を巻き込んだ日本語学習を心がけた。
カリキュラム案に掲載されている活動案、ワークシート等を地域の実情に合わせて書き換えて、教材を作り日本語講座を実施した。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

- ・なるべく多くの日本語講座で日本人ボランティアや地域で活躍している専門知識を持つ人たちに講座に参加してもらった。その結果、警察官、消防士、歯科医、ボランティアなど講座に協力してくれた人たちが外国出身者と話すうちに言語調整をして、どんどん外国出身者に分かりやすく話すようになっていった。
- ・福島市アクティブシニアセンター・アオウゼの主催で発表会を開催した。日頃日本語教育と関わりのない多くの人に外国出身者の発表を聞いてもらうことができた。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

- ・自分たちだけで、広報や事業の実施を完結させないようにした。
- ・外国出身者コミュニティと積極的に連携し、テーマの設定や学習者への周知等協力してもらった。
- ・小野町国際交流協会、川俣町国際交流協会と協働で事業を実施することで、日本語ボランティア研修会参加者や学習者への周知や会場の準備等を協力してもらい、広く「生活者としての外国人」のための日本語教育の普及に努めた。
- ・福島市アクティブシニアセンター・アオウゼの主催で発表会を開催した。より広い地域の人々に発表会の実施を広報することができた。
- ・今後も、日本語教室の活動を広く地域の人々を巻き込んだ形で実施していきたい。今回、日本語ボランティア研修会を受講した人に日本語ボランティアの活動の場を提供する。今回作成したボランティア用教材を当教室のボランティア研修の教材として使用していく。次年度、当教室のホームページを作成し、今回作成した教材、事業の成果をホームページで発信していきたい。

(6) 改善点、今後の課題について

- ・日本語講座で毎回とったアンケートでは100%の学習者がもっと日本語を学びたいと回答しているが、日本語講座に参加する行動には直結せず、どのような日本語の学びを彼らが望んでいるのか、今後もニーズを詳しく分析する必要がある。
- ・学習者にも日本語ボランティアにも、活動をととした日本語学習、対話をととした日本語学習、真正の学び等の価値をなかなか理解できない人がいる。コミュニケーション力の向上よりも、文法事項の理解に日本語学習の成果を求める学習者や日本語ボランティアに、必要に応じて「生活者としての外国人」のための日本語教育の有用性を示していきたい。
- ・外国出身者が日本語が上手ではなくても、日本の地域社会で承認され、自己実現ができるように、今後も地域住民との交流の場を創り出していく必要がある。

作成したチラシ

・日本語ボランティア研修会参加者募集チラシ

・外国出身者の自分だけのエピソード発表会のチラシ